

## 中野侯から世界へ

グローバリゼーションの時代を生き抜くために

信州大学人文学部  
社会学分野准教授

辻 竜平

はじめに

ある何でもない週末の夕方、私は東京の自宅（当時）で比較的大きな揺れを体験しました。急いでNHKをつけたら、長岡市の市街地で女性が右往左往する映像が映し出されていました。私の母は入広瀬村の出身で、親せきは守門村や小出町や六日町にもいました。「これは大変なことになった」と親せきに何度も電話をし、数時間後に小出の伯父に電話につながり無事を確認しました。これが、私にとっての新潟県中越地震発生時の体験でした。

それから来る日も来る日も中越地震のことが報道され、私はこの地震の復旧・復興の過程を追ってみたいと思うようになりました。それというのも、私は阪神大震災を体験し損なっていたからです。平成七（一九九五）年一月、阪神大震災が起こった時、私は大学院生として米国カリフォルニア大学に留学していました。宝塚にある実家も半壊の被害を受けました。なじみのある風景が変わり果てた姿をテレビの映像を見ながら、私は何もできないふがいなさや後ろめたさを感じました。それから数年後、留学から帰ってしばらくしたころ、母は私に、「あの震災を体験できへんかったなんて、あんたは人としての大きな経験を逃したな」と言ったのです。

その母の言葉がにわかによみがえり、背中を押されるように被災地の一つである栃尾にやってきま

— 写真 中野侯の四季 —



した。当時、私は明治学院大学の講師でしたが、平成十七（二〇〇五）年の八月に栃尾市役所の復興対策室の植村さんとゼミ学生の添川さんとともに西中野俣区長の金内忠司さんにインタビューをしたのが、中野俣地区とのご縁の始まりでした。その後、繁窪区長の山本さん、三地区の住民の方々、小学校の富澤校長先生や山本先生など、多くの方から何度もお話を伺ったり、地域の祭りなどに参加させていただいたりと、大変お世話になりました。

私は社会学者ですが、特に災害社会学や農村社会学を専門にしていたわけではなく、その分野の文献に少しずつ目を通してながら、また、実地でも多くのことを学ばせていただきながら、少しずつ記録を取り、分析し、考察を加えるといった作業をしてきました。平成十八年には、栃尾の一般住民の方々を対象とした質問紙調査（アンケート調査）も行いました。このようにして少しばかり中野俣の方々にご縁ができたことがきっかけで、本書に若干の紙幅を頂ける榮譽に預かることができましたので、一筆執らせていただきます。

### 中野俣の社会関係資本

中越地震の翌年、平成十七（二〇〇五）年の夏、栃尾市内のいくつかの地区で区長さんにインタビューをさせていただいた時、「十年分も一気に過疎化が進んだ」とか「集落のまとまりが悪くなった」といった声を聞きました。程度の違いはあれ、どの地区においても、地元を去る人があり、田畑や道路や用水路は崩れ、利害関係を伴う諸問題が顕在化し、住民間の感情も従来のままではなくなってしまうようなようでした。

それから数年たち、それぞれの地区の様子はずいぶんと変わってきているようです。比較的うまく地域の再生が軌道に乗りつつあるところと、そうではないところが出てきているようです。あまりい



い加減なことを言っただけだと思いがちですが、いろいろな点から考えると、中野俣の三地区は、比較的うまくいきつつある方に入ると思います。それはなぜなのかを私の専門とするネットワークの理論に照らしながら考えてみます。

中野俣地区において地域再生がうまくいくようになった最も大きな原因は、栃尾の中でも最も被害が大きかった半蔵金や栗山沢と比べて、中野俣三地区の人口流出が比較的少なかったことであるように思われます。一般に、人と人のつながりであるネットワークが切れてしまうと、さまざまな社会的機能が低下し（例えば、人材不足で協同作業が成り立たなくなるなど）、ひどい場合には集落としてのまとまりが失われてしまいます。しかし、人口流出が少なかったことで、中野俣では、そのような機能の低下はある程度まで抑えられたようでした。これは、不幸中の幸いだったと言ってよいでしょう。最も被害の大きかった諸地域では、住民感情が冷え込んだり、集落としての機能やまとまりを失ってしまったたりしているところも出てきているようなのです。もちろん、中野俣地区においても、利害関係などで大小さまざまな問題があったのだと思いますが、公式・非公式のさまざまな調整によって、どうにかまとまりが維持されているようです。

しかし、これで安心というわけではありません。もし、もっと被害が大きくて、もっとたくさん人口流出が起こっていたとしたら……。もし、これから過疎化が大きく進行し、人口流出がひどくなってしまうたら……。中野俣三地区においてはそうならないように、各地区において、また三地区全体において、さまざまな取り組みを行い、より魅力的でより住みやすい地域をつくっていただきたいと思っています。そのためには、何が必要でしょうか。

ここで、その手掛かりとなる理論を一つ紹介しましょう。それは「社会関係資本論」という理論です。社会関係の集まり（人々のつながり）であるネットワークは、利用可能な資本だという理由で、



このような理論の名前が付いているのですが、これまでの知見から、ネットワークに二つの特徴があると、優れたパフォーマンスを発揮するといわれています。

第一に、ネットワークの内部の密度が高いことです。例えば、各地区の中での人々がお互いに知り合いであり、持ちつ持たれつの関係であることです。そうすると、地区全体に相互信頼がはぐくまれ、全体として協力的になり、まとまりが出てくるのです。しかし、そのような密度の高いネットワークにおいては、あまりに利己的な行動をすると、結局は自分のためにならないといった形で跳ね返ってきます。震災時においては、地区に住むほかの人たちに、ああしてほしいこうしてほしいとさまざまに欲求が出てきますが、あまり自分の欲求を主張しすぎると、かえってうまくいかなくなってしまうということもあつたようです。しかし多くの場合、ネットワークの密度が高いことは良い結果をもたらします。

第二に、ネットワークが外部に対して開かれていて、さまざまなアイデアや外部の資源にアクセス（接近）が可能なことです。例えば、地区のみなさんが外部からの団体を受け入れたり、ほかの地域おこしの成功例とされる地区に視察に出掛けたり、地域の情報を広く社会に発信したり、地区の誰かが有識者や有力者と知り合いであつたりといったことです。外部にネットワークを開いておくことは、つつい地区内のことばかりに目がいきがちな農村においては、注意しておくべきことです。「井の中の蛙かわず」になつてしまうこと（世間一般とのつながりを失うこと）は、社会全体の中での地域の位置づけや役割についての判断を誤ることにつながり、とても危険なことです。「これは地域活性化のためのよいアイデアだ」と思って実行したところが、近隣のほかの地区でも同じことを考えていたで、顧客の奪い合いになり、効果が半減してしまった、というようなことにならないようにする必要があります。そのため、三地区が協力して情報交換をすることもよいことだと思えます。



この第二の点については、もう少し踏み込んでみます。外部に開かれたネットワークとして有効に機能しているのは、中野俣地区の場合、中野俣小学校と、三地区の区長さんでしょう。この二つを維持することが、外部へのアクセスのためにとっても大切だと思います。

小学校を人々の集いの場として認識されている方は多いようです。それはもちろんそうなのですが、それは同時に外部に開かれたネットワークの結節点でもあるのです。これまで歴代の校長先生・教頭先生をはじめ教職員の方々は、多くが地元以外の出身であり、また、ほかのさまざまな地域のこを見聞きしてから来られていますので、ある意味ではエイリアンです。たとえば、エイリアンの長である現校長の富澤先生はいろいろなことをご提案なさいますが、それらの提案には、外部からの情報や資源を利用し、それらを中野俣にある人的・物的資源とうまく混ぜ合わせながら再構成するといったエイリアンならではの工夫をされています。小学校の地域に果たす重要性は、とても大きなものです。現在は児童数二十人ほどの小規模校でありながら、小学校の必要性を認識し行政と交渉しながら守ってこられた地域の方々のご判断と実行力には、頭が下がる思いです。とりわけ、三地区の区長さんが地震の三日後に小学校の存続を陳情に行かれたと伺っていますが、これからも小学校を守り、中野俣内部のネットワークを強めるとともに、外部との結節点としても活用されますことを切に祈る次第です。

また、それぞれの地区の区長さんが、多くの場合何期かお務めになって、行政（旧栃尾市役所・栃尾支所）との間に太いパイプを築かれてきたことは、行政からの情報を安定的に受け取り、また地区の要望を安定的に伝えていくことに役立つてきているようです（栃尾の市街地〔通称「町場」〕では、区長さんの任期は一年で、頻繁に交代されるところが多いようです）。これが結果として、行政が中野俣地区に注意を向けてくれる要因となっていると思います。要望が何もかなえられないわけでは



ないでしょうが、また、区長さんご本人にとっては大変なお仕事だと思いますが、継続されることの効果は大きいと思います（そうとはいえ、県知事に任期を設けようという議論があるように、あまりに長期間にわたるのも癒着や独裁といった問題が生じる可能性があるので、塩梅は大切かと思いません）。

### 中野侯から世界へ

昨今、グローバルゼーション（グローバル化）という言葉が時代のキーワードとなっています。グローバルとは世界という意味ですから、グローバルゼーションは、あらゆることから世界とつながっている（いく）ことを意味しています。二〇〇八年の上半期は重油価格の世界的高騰の悪影響が深刻化し、ガソリン価格の高騰のみならず、さまざまな産業に影響が波及していています。これは世界で起こるさまざまな出来事が社会の末端までつながっていることを実感する一例です。

グローバルゼーションの長所としては、ある物を生産するのに世界の中で最も適した国や場所において行うので、より生産効率が高くなり、世界全体が豊かになることとされています。しかしその一方で、過度の開発が行われたりした結果、砂漠化や地球温暖化といった環境問題が発生するなど、負の側面もグローバル化しています。また、アメリカという経済的・軍事的最強国の論理が押し付けられ、世界中の民族や地域の文化と衝突するようになっていきます。グローバルゼーションが、アメリカニゼーションと揶揄されるゆえんでもあります。「ブッシュこそが世界最悪のテロリストである」といわれるのも、それなりに理由はあることなのです。

そのため、グローバルゼーションに対抗し、世界各地で民族主義的な運動が展開されています。何でもかんでも効率主義でよいのか、多少効率は悪くても自分が属する民族が培ってきたさまざまな文



化を守っていいこうではないかという思いが、多かれ少なかれ込められているのです。日本では少数民族の人口が比較的少ないために、自分が日本民族であるということを普段あまり意識することはありません。しかし、自分のルーツ(根源)が何かということは、誰にとってもそのアイデンティティ(自我・自己同一性)の中で大きな位置を占めるものであるはずで、だからこそ、グローバルゼーションに対抗する民族主義的運動が世界のあちこちでとめどなく生まれかけてくるのです。少数民族が散在してその勢力が拮抗している地域の場合には、民族的アイデンティティが重要になるでしょうし、日本のように国土のほとんどが日本民族によって住まわれている場合には、地域アイデンティティ(ローカル・アイデンティティ)が重要になってくると思われれます。

中野侯から東京などの都市に向かおうとする青少年はこれからも多いでしょう。しかし、東京でカルチャーショックを受け、一度は自分のルーツを捨てて東京に適應しようともがきますが、それでも最後に本人の中に残っているのが、幼き日に中野侯小学校や地域で培われたルーツである教養です。教養に相当する英語は culture ですが、これは文化とも訳されます。また、culture の語源は「耕す」を意味する cultura というラテン語です。つまり、教養とか文化というものは、さまざまな知識や技能を単にパラパラと表面的に浴びるだけではなく、その知識や技能を内面で耕すことによって自分のものとなったものこのことを指すのです。幼いときに身に付いた教養としての地域アイデンティティは、生涯にわたり本人のアイデンティティ全体の中で基底的な位置を占めるものなのです。

さて、本書の意義は、こんなところにあるのだと私は思います。本書は、前半で、中越地震から現在までの中野侯地区の人々の復旧・再生への過程や思いが記録されています。また後半では、中野侯の風土・歴史・文化などが記録されています。後半は、一見すると独立して過去を振り返る内容のようにも見えますが、実は、それこそが地域アイデンティティの基盤なのです。そして、震災から



の復興時である現在までに、それがどのように生かされ変化したか（しなかったか）を知る手掛かりとなるのが、震災の記録である前半部分です。みなさんや後の世代が未来のある時点で本書をひも解いたときには、この本全体がすでに過去の記録となっています。そして、そのときには、本書全体がその時点での地域アイデンティティの基盤となっているに相違ありません。本書がことあるごとにひも解かれ、その都度読者が自分のルーツを確認し、自分の地域アイデンティティを振り返り、世界（社会）の中でどう生きるかを考える手掛かりになることが、本書の果たす大きな役割であると思います。本書は、温故知新のまたとない素材なのです。

私の実家がある宝塚には、阪神大震災の後、このような性格を持つ書物が編纂へんさんされることなど期待すべくありませんでした。有名な宝塚歌劇は外部資本からもたらされたもので、市民の多くとは無縁ですし、宝塚温泉も全く風情のない殺風景な場所に変わり果ててしまいました。みなさんには、先祖から引き継がれ、自らがその維持・発展に寄与した風土・歴史・文化という遺産があります。そのような素晴らしい遺産がある幸福を、本書の一文一文字に感じながら大切に伝えていただきたいと思えます。それは、世界の中で自らが、そして後の世代がどう生きるかという壮大な問いにつながっているのです。

